

江戸時代から続く伝統の近江真綿

山脇源平商店に行ってきました！

令和7年10月2日
取材：近畿農政局消費・安全部

山脇源平商店について

株式会社山脇源平商店は、滋賀県米原市で、近江真綿の製造・販売を行っています。創業してから約300年の歴史を持っています。

以前は日本の産業を支えていた養蚕・真綿産業ですが、近年は衰退の一途をたどっています。真綿を広く知ってもらうため、近江真綿布団の製造をはじめ、2021年には繭の成分を使用した化粧品ブランドを立ち上げるなど、令和となった現在も真綿の継承・認知度向上に向けて進化を続けています。

真綿とは？

植物性の綿ではなく、蚕の繭を使用した絹製品です。

蚕の繭をほぐして薄く広げ、何枚も重ねるとふわふわの真綿になります。たくさんの真綿から作る真綿布団は、軽くて暖かく、吸湿性や消臭性に優れ、体をやわらかく包み込んでくれます。



真綿工房近くの桑畑の様子



江戸時代に発行された養蚕の書物



真綿布団の手引き作業



大量の桑の葉と蚕



所在地
滋賀県米原市岩脇1011-1
米原ICから車で約10分

角真綿づくり体験

山脇源平商店では、角真綿づくり体験をすることができます。
今回はその体験の様子取材しました！

作業中、繭に含まれる
セリシンのおかげで、
肌がツルツルになるのを実感！

①重曹で炊き上げた
繭1個を手に取り、穴をあけ、
5cm程度に伸ばす。

②右上を右手親指、人差し指で、
右下を右手の小指で支え、
三角形を作る。

③繭を伸ばしながら、
左手の指から甲に
むけてかける。

④繭をかけた左手を
パーの形に開き、
伸ばす。

1つの窯で約3,400個分の繭を炊き上げます。

角真綿づくり体験



完成した角真綿は陰干しにして乾燥させた後、揉みほぐすと“ふわふわ”の綿になります。

繭は、水の中で伸ばしても見た目からは想像できないくらい“しなやかでとても丈夫”です！

完成した角真綿で洗顔して肌を美しく！



⑤左手から繭を外し、水の中で左端から右に繭を伸ばす。4回ほど繰り返す。

⑥伸ばした繭を枠の左上にかけ、右上にも伸ばしながらかける。

⑦両端の下側を持ち、伸ばしながら木枠の左下、右下にかける。

⑧作業を16回繰り返し、木枠から外すと角真綿の完成。



山脇源平商店の代表にお話を聞きました。



山脇源平商店 代表 山脇和博さん



山脇源平商店の「角真綿」や「真綿布団」について教えてください。

近江地方では、繭を手作業で一つずつ厚さにムラが出ないように丁寧に引き伸ばし、四角い木枠に16枚重ね、これを木枠から外したものを角真綿と呼んでいます。真綿布団は、この角真綿を手で引きのぼし(「手引き」といいます。)、製造しています。布団1枚に約3,000個もの繭を使い、手引きを600回ほど繰り返す作業は、すべて手仕事です。2人がかりでも1日に1枚しか製造できません。

山脇源平商店では養蚕業も行われていると聞きました。

近江真綿の伝統を継承し未来に残していくため、2016年から自社で養蚕業も開始しました。現在は年間約6万頭の蚕を飼育し、餌となる桑も自社で栽培しています。

年間の訪問者数はどのくらいですか？

個人や、JRのウォーキングイベント、小学生の校外学習、企業研修などで、100名以上の方にお越しいただいています。また、テレビや雑誌、HP掲載の取材なども多くあります。

今後について考えていることはありますか？

養蚕農家や真綿を扱う企業は年々減少していて、全国的にも後継者がいない状態にあります。角真綿づくり体験を通して「真綿のやさしさと強さ」を感じていただき、未来に繋いでいきたいと思っています。

山脇源平商店の詳細はこちら → <https://iwogimawata.com>

蚕糸について(農林水産省HP) → <https://www.maff.go.jp/j/seisan/tokusan/sannshi.html>